

興味あるタイ国産リンドウ属植物

豊 国 秀 夫

H. Toyokuni : *Gentiana leptoclada* subsp. *australis*, an interesting member among Thai gentians

タイ国のリンドウ属(*Gentiana*) 植物は10種記録されている(Ubolcholaket 1983)⁽¹⁾。その中の風変わりなメンバー *G. australis*(Craib 1916)⁽²⁾ をご紹介したい。本植物は、タイ国北部のチェンダオ山 (Doi Chiangdao) で1913年1月に Kerr が採集した標本に基づいて記載命名された。これは、リンドウ属の中でも、日本に産しないステノギネ節 (Sect. *Stenogyne*) に属している。本節には、現在迄約20種が報告されているが、節の特徴として、花冠副片(plicae)が左右非相称であり、内面から見て、左側で裂片と切れ間なく連続するが、右側は深く切れ込んでいる (Fig.1)。他に、花柱が長く、柱頭も長く、種子に翼のある事も節の特徴である。*G. australis* に最も近

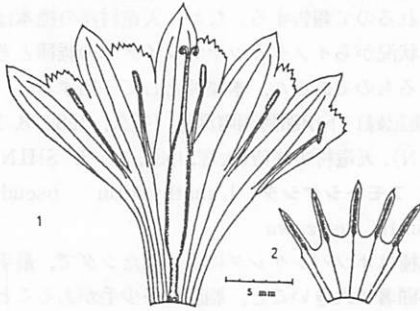


Fig.1 Open corolla (1) and open calyx (2) of *Gentiana leptoclada* ssp. *australis*

縁なのは、中国雲南省の金沙江流域の石鼓附近での採集品により、1907年に命名された *G. leptoclada*⁽³⁾ である。この種は、雄蕊は花冠副片より長いと記載され、タイプ標本につけられたスケッチもそうになっているが、実は、このスケッチ自体がタイプ標本の実態とは異なっていた。筆者は、正基準標本 (holotype specimen) は写真を見ただけだが、複基準標本 (isotype sp.) をキューで見た結果、雄蕊は副片と対生していて、副片より先端がとび出していない事が判った。結局、*G. australis* は *G. leptoclada* から、雄蕊が少し短い事、萼の外側の角ばっている部分がよりざらざらしている事、種子の翼状部が多少はっきり区別できる事などの諸点で異なり、種として区別するには、相違点が不足なので、亜種として認めるという次の見解を筆者は表明した。*G. leptoclada*

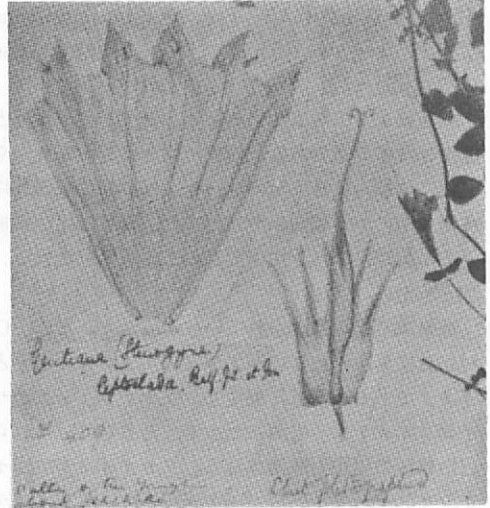


Fig.2 Sketches attached to the holotype specimen of *Gentiana leptoclada*

subsp. *australis* (Craib) Toyokuni (1986)⁽⁴⁾。チェンダオ山と石鼓間の距離は約 850 km で、植物地理学的にも興味がある。

注(1) Ubolcholaket, A. 1983. Thai Forest Bull. (Bot.) 14: 94-127.

(2) Craib, W. G. 1916. Kew Bull. 1916: 266.

(3) Forrest, G. 1907. N. Roy. Bot. Gard. Edinb. 4: 71, Tab. xiv.

(4) Toyokuni, H. 1986. J. Fac. Lib. Arts, Shinshu Univ. 20: 171-181.

〔新刊紹介〕 大場達之・高橋秀男 「日本アルプスの花」 B 6 変形判 (19cm×13cm), 224 頁, 小学館, 1,850 円。

植物、特に高山植物に関する著作の多い、大場・高橋両氏のコンビでの著書で、小学館の万有ガイド・シリーズの33として出版された。写真+線画という組み合わせ、かなりの種についての日本アルプスにおける分布図、末尾の植物社会学的解説など、読者に植物を知って貰おうとする著者達の努力が随所に見られる。また、大きさも価額も手頃で、お推めしたい書である。(H.T.)